

“ニッポンの香りのふるさと”淡路島線香の新たな取り組み ～あわじ島の香司ブランドを世界へ発信～



日本のお線香の70%を生産する淡路島

日本で最も多くのお香・お線香を生産しているのは、兵庫県「淡路島」。その生産量は、日本国内で作られている生産量の約70%以上を占めています。

江井在住（旧一宮地区（現在の淡路市））の田中辰造氏が、嘉永三年（1850年）泉州堺で線香製造の技術に出会い、淡路島にその技術を持ち帰り製造しはじめたのがお線香づくりの始まりといわれています。また、降雨量が少なく、乾燥した気候や線香の輸送に便利な立地条件も、線香の発展に欠かせない要因でもありました。

香りマイスター“香司ブランド”と和をコンセプトにした香り「武士伝」

伝統製法と技で確かな品質を生み出す“淡路島の香り”を新たな視点で幅広い生活シーンなどに利用していただきながら多くの人に知ってもらうことを目的に、「JAPANブランドプロジェクト」を立ち上げました。

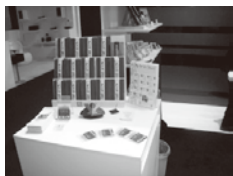
ブランドづくりでは、深い知識と磨き上げた技により、調合から仕上げまでお香作りに関する一切の責任を担う香りのマイスター“香司（こうし）”が伝統製法や厳しい品質管理を誇りによって生み出されている「あわじ島の香司」それ自体をひとつのブランドとしてお香ブランドの象徴としています。



さらに「和」をコンセプトにした伝統と革新の“日本の香りシリーズ”を開発した。その商品の中でも「武士伝」は、厳選された一つ一つの香りと向き合う姿をイメージし、まるで武士のようにその香りへのあくなき情熱と鍛錬した技を一つの商品に仕立て上げ、商品への自信と責任の証として十四人全員のマイスターの名前を入れ、完成しました。



「あわじ島の香司」ブランドを世界へ発信！



「あわじ島の香司」ブランドとして世界へ発信するため、ドイツやフランス・パリに焦点を絞り市場調査やイベントの開催を行いました。さらに、来場者数14万人、出展社数4,000社の規模を誇る最大級の見本市「アンビエンテ」やフランスの代表的な見本市である「メゾン・エ・オブジェ」への出展も果たし、バイヤー（仕入先等）らと商談を行い香りの都フランスの現地の方々にご好評いただくことができました。



日本の香りシリーズ むらおこし特産品コンテストで最高賞“経済産業大臣賞”受賞しました！

地域特産品の全国市場への登竜門として高い評価のある平成25年度むらおこし特産品コンテストで日本の香りシリーズ“武士伝”が最高賞の経済産業大臣賞に輝きました。



伝統的な原料のこだわりや製品のストーリー性やデザイン等地域の伝統文化に新たな試みを取り入れた商品として高く評価されました。又、東日本で被災された岩手県南部鉄器との香立ての組み合わせ、震災を経験したものと士がともに地元の産業を盛り上げていきたいとの思いが込められた商品でもあります。



香りへの更なる挑戦を目指して！

淡路島にお線香作りが始まって165年余り。作り出される香りの幅も大きく広がっています。淡路島で育まれた伝統文化と新たな香司ブランドの取組みを融合させたお香作りを一人でも多くの人に伝えていくため、国内だけでなく海外への情報発信も行うとともに、更なる香りを求めてより良い製品の開発に力を入れてまいります。

組合概要

組合名：兵庫県線香協同組合
所在地：〒656-1511 兵庫県淡路市郡家621
電話：0799-85-1212 代表者：理事長 石井 廣志
H P：http://awaji-kohshi.com/top.php

